

都市再生整備計画（第7回変更）

かねつぐ
兼続地区

にいがた 新潟県 みなみうおぬま 南魚沼市

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	ミナミウオヌメ 南魚沼市	地区名	カネツグチク 兼続地区	面積	600 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度				

目標

大目標：地域の歴史資源や自然景観を活用した文化交流型のまちづくりを目指す。また、市民と行政の協働による、雪に強く安全・安心で快適な雪国都市を目指す。

目標1：平成21年の歴史大河ドラマ原作に決定した「天地人」の主人公「直江兼続公」の生誕地として、放映決定を絶好の機会ととらえて観光PR、施設整備、交通ネットワーク整備による中心市街地の魅力の増進を図る。また、まちのシンボルである坂戸山・魚野川を中心としたまちなか散策等の推進や、歴史資料館設立により交流人口の増加を図る。

目標2：本地区は以前より道路除雪はもとより住宅の雪下しなど、雪処理に悩まされてきた。雪に強いインフラ整備を行い、安全・安心な市街地を形成することで、定住促進を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

□南魚沼市は、平成16年11月1日に旧六日町と旧大和町が新設合併、更に平成17年10月1日には旧塩沢町を編入合併し、魚沼地域の中心的な都市として誕生した。第1次南魚沼市総合計画では、「自然・人・産業の和で築く安心のまち」を将来像として、市民の誰もが安心していきいきと暮らせるまちづくりを目指している。

□戦国時代の武将である「直江兼続公」の生誕地であるにもかかわらず、NHKの歴史大河ドラマ放映で訪れる観光客の楽しめるための施設が集約されておらず、歴史的景観の形成が不十分な現状である。

□駅周辺の商店街は、拠点となるショッピングセンターがあるが、他の地域の例にもれず、モータリゼーションの進展や郊外型大型店舗の隆盛により、衰退の一途をたどっている。まちの顔として駅前商店街の活力が衰退している現状を打破するための施設整備及びソフト事業による活性化が必要である。

□当市は、特別豪雪地域の指定を受けており、平成18年は市街地の最高積雪深が3mを超える状況であり、市民の生活に大きな影響を及ぼしている。雪に強いまちづくりは地域住民の長年の願いでもある。また、長年に渡り地下水による消雪を行ってきた影響で市街地では地盤沈下が進み、施設への影響も生じている。そこで、地盤沈下を発生させない方策を検討する観測事業を実施し、地下水利用の節水と共存方法の検証を図る。

課題

○観光客や地域住民が楽しめる歴史・文化的な観光・教育施設と景観整備が必要である。

○六日町駅は上越線・ほくほく線が乗入れ、バス路線の拠点であり、交通ネットワークの拠点となっている。公的機関や金融機関とも近いことから、集客への条件は整いつつある。これに、ショッピングセンターと駅前商店街による活性化へのプログラムを組み合わせることで、交流人口の増加につながる魅力づくりが必要である。

○駅周辺に魚野川管理通路の散策道、銭淵公園、坂戸山、飯綱山と気軽にハイキングが楽しめるスポットがある。これらの駅周辺の魅力ある環境と古くから親しまれてきた温泉街とを連携させた新しいプログラムによる、交流人口の増加につながる魅力づくりが必要である。

○地盤沈下対策のため、地下水の汲み上げが規制される中で、除雪活動を地域住民と協力して行うとともに、消雪パイプや流雪溝などの消融雪施設の整備と維持、機械除雪体制の見直しが必要である。

○駅東の市街地は特に狭隘道路が多く、緊急車両の進入に支障があり、不測の事態の発生に備え、整備が急がれている。積雪の多い冬場には特に進入が困難となるため、水害の防止を目的とした十二沢川の改修に併せ、周辺道路の整備を進めることが効率的である。

将来ビジョン(中長期)

○歴史・文化的な景観と駅周辺の施設整備による交流人口の増加を将来ビジョンに掲げます。

○雪に強いインフラ整備は定住促進の最大のポイントと捉え整備を進めます。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	目標年度	目標年度
定住人口	人	地区内の人口 (地区内の住民基本台帳人口)	平成13年度と平成18年度では△2%で人口が減少しているが、定住促進施策により△1%の減少率に抑える	7,171人	7,100人	平成18年度	平成24年度
主要観光施設への来客者数	人	地域内観光宿泊施設の宿泊者数 (南魚沼市観光動態調査)	平成17年と比較し△5%に宿泊客が減少しているが、魅力ある景観と歴史資源を活用した事業を実施し、約13%の増加を図る。	88,334人	100,000人	平成18年度	平成24年度
六日町駅の乗降客数	人/日	JR六日町駅の1日当りの乗車客数 (JR東日本の公表値)	平成14年と平成17年で△3.6%で乗車客数が減少しているが、定住促進のためのインフラ整備、魅力ある中心市街地の整備、駅周辺の環境整備といった施策により現状維持を図る。	5,637人/日	5,637人/日	平成17年度	平成24年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(駅周辺の魅力づくりと歴史資源・自然景観の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅前広場の整備: 駅周辺商店街の利便性を高めることと、交通ネットワークの施設整備を図るため、商店街に隣接する観光交流駐車場を整備する。 ○直江兼続公を中心とした観光資源の情報を集約した観光交流センターを建設し、地域コミュニティ活動の拠点とする。 ○駅からハイキングの推進: 駅から魚野川の散策道、銭淵公園、坂戸山、飯綱山といったコースは、気軽に楽しめるハイキングコースである。案内看板や周辺お楽しみマップなどの整備により、受け入れ態勢の整備を図る。 	<p>観光交流駐車場整備事業(基幹事業)、情報板設置事業(基幹事業)、広報事業(提案事業)、コミュニティバス運行事業(提案事業)、観光交流センター事業(基幹事業)、まちづくり活動事業(提案事業)、モニュメント設置事業(提案事業)、既存物ライトアップ事業(関連事業)、坂戸城跡整備事業(関連事業)、足湯設置事業(関連事業)、情報の駅(関連事業)</p>
<p>整備方針2(雪に強いまちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広場: 地域住民が災害時に避難するための、緊急設備を備えた防災広場を整備する。 ○道路整備: 狭隘道路の整備により緊急車両の通行の確保を図る。 ○地盤沈下対策: 地盤沈下を発生させない方策を検討する観測事業を実施し、地下水利用の節水と共存方法の検証を図る。 	<p>広場整備事業(基幹事業)、道路事業(基幹事業/市道整備)、地盤沈下対策事業(提案事業)、事業活用調査(提案事業)、スノートピア合併事業(関連事業)、十二沢川改修事業(関連事業)、天地人博開催事業、散策道整備事業(関連事業)</p>
<p>その他</p>	

